

囲碁

[特集]

一人より二人 ～誰かがそばにいる幸せ～



樋口勇一郎さん



樋口文菜さん



近藤玲央さん

頭脳で勝負

こんどう れお
近藤 玲央さん (北郷小学校5年生)

ひぐち あやな
樋口 文菜さん (北郷小学校5年生)

ひぐち ゆういちろう
樋口 勇一郎さん (北郷小学校3年生)

今年5月20日に開催された、第9回文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦栃木県大会で、見事優勝した北郷小学校の3人に、インタビューをしました。

囲碁を始めたきっかけを質問したところ、近藤さんは、「脳に良いから」というお母さんの勧めもあり、小学校にあがる前から始めたとのこと。樋口さん姉弟は、学校でもらった「あすなる会」という囲碁教

室のプリントを見て興味を持ち、勇一郎さんが1年生、文菜さんが3年生のときに、教室に参加したのが最初とのこと。

やってみて、頭を使って考えることが楽しい、相手の石を取ることが楽しい、陣地がどんどん広がることが楽しいなど、ますます興味がわいてきたようです。

7月29日からの全国大会では、できれば2日目まで残りたい、1回戦はぜひ勝ちたいなど、抱負は個々により違いますが、この体験をもとに、さらに成長してほしいと思います。

3人とも算数が得意とのことですが、囲碁をとおして頭を使い、学業も向上することを心から願っています。(取材:6月北郷小学校にて)